

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	みらい		
○保護者評価実施期間	令和6年12月2日		～ 令和6年12月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	37 (回答者数)	34
○従業者評価実施期間	令和7年1月4日		～ 令和7年1月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5 (回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月1日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもが安心感を持って、楽しみに通所してくれていること。	子どもと療育者との信頼関係を築くことから始めています。そして、子どもが持つ興味や得意なことを大切に、共感しながら褒めたりアドバイスをしたりしています。	子どもと療育者との信頼関係を築くこと、子どもが持つ興味や得意なことを大切にすること、共感し合うことといった基本姿勢を忘れず今後も継続していきたいと思っています。そして、ご本人やご家族からの要望に応じていくことだと思います。
2	特性等に応じた専門性のある支援が行われていること。	苦手なこと(感覚、活動、ことば、人など)を把握し、調整をしています。スモールステップで自身獲得やスキルアップを目指すケース、クールダウンなどコントロールが必要なケースなど様々な支援・対応をしています。	保護者からの声をお聞きしていくのは勿論のこと、本人からの声(とくに意思伝達が苦手な子の声)をもっと聞けるようにしたいです。
3	活動プログラムが固定化されないよう工夫されていること。	子どもが意欲的に喜んで取り組んでくれる教材や活動、場面を設定するよう心掛けています。興味、交流する人、活動場所、体験などを広げていく側面とスキルアップの側面があると考えています。	家族参加型の活動、緊急時や災害時の訓練や体験活動を増やしていきたいと思っています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や認定こども園、幼稚園、児童クラブ等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会が少ないこと。	事業所近くの公園にて近隣の子どもたちと一緒に鬼ごっこなどをして遊ぶ機会を設けていた頃もありましたが、交流中にその子たちが怪我などをした時のことを考え控えております。	①他の子どもが集う公園や図書館などを活用する。 ②自治会や地域行事に参加する。 ①は利用者全員に機会あり。②は事業所として機会を持ったが、一部の子どもたちに留まっています。児童クラブとの交流も模索していきます。
2	家族支援プログラムや家族等も参加できる研修会や情報提供の機会、保護者同士の交流の機会が少ないこと。	保護者同士の交流の機会は、コロナ感染拡大以前は少ないながらも実施していましたが、その後交流機会が乏しいことに慣れてしまったところがあります。保護者参加型の研修は、ペアレントトレーニングやカウンセリングなど指導的な内容の実施になかなか踏み切れませんでした。	まず、家族参加型の活動を増やしていきたいです。子ども家庭以外での姿、療育者の関わり方を見ていただきながら助言や情報提供ができると思います。また、複数の参加があれば、保護者同士の交流になると思われます。トレーニング等は研修などを受けた後に家族へ還元していきたいと思っています。
3	非常災害訓練が行われているかわからないという回答があること。	非常災害訓練を実施していますが、療育の中の小活動のようになってしまっていること。利用開始が年度途中の場合、訓練を経験せずに年度を終えていること。訓練実施の予告や報告といった伝達が弱いことなどが考えられます。	訓練実施の予告や報告を行い、ホームページにも掲載していきたいと思っています。また、非常災害訓練をその日の活動のメイン活動に位置付けていきます。